

心房細動とワルファリン

- ▶ 日本脳卒中学会のガイドライン2004「心房細動の抗凝固・抗血小板療法」によると、脳卒中の危険因子をいずれか1つ以上もつ NVAF (非弁膜症性心房細動) 患者にはグレード A でワルファリンを推奨しています。
- ▶ ある雑誌によると、実際のワルファリン使用はガイドラインより過小評価であるとあります。そこで、レセプトデータから心房細動患者に対するワルファリン使用実態 (患者数) の経年変化を分析してみました。比較にガイドライングレード B 推奨のアスピリンを用います。

分析対象母集団を各年の標準病名「心房細動」の患者とし、各年の母集団に対するワルファリン錠 1mg とバイアスピリン錠 100mg 使用患者を対象に分析します。

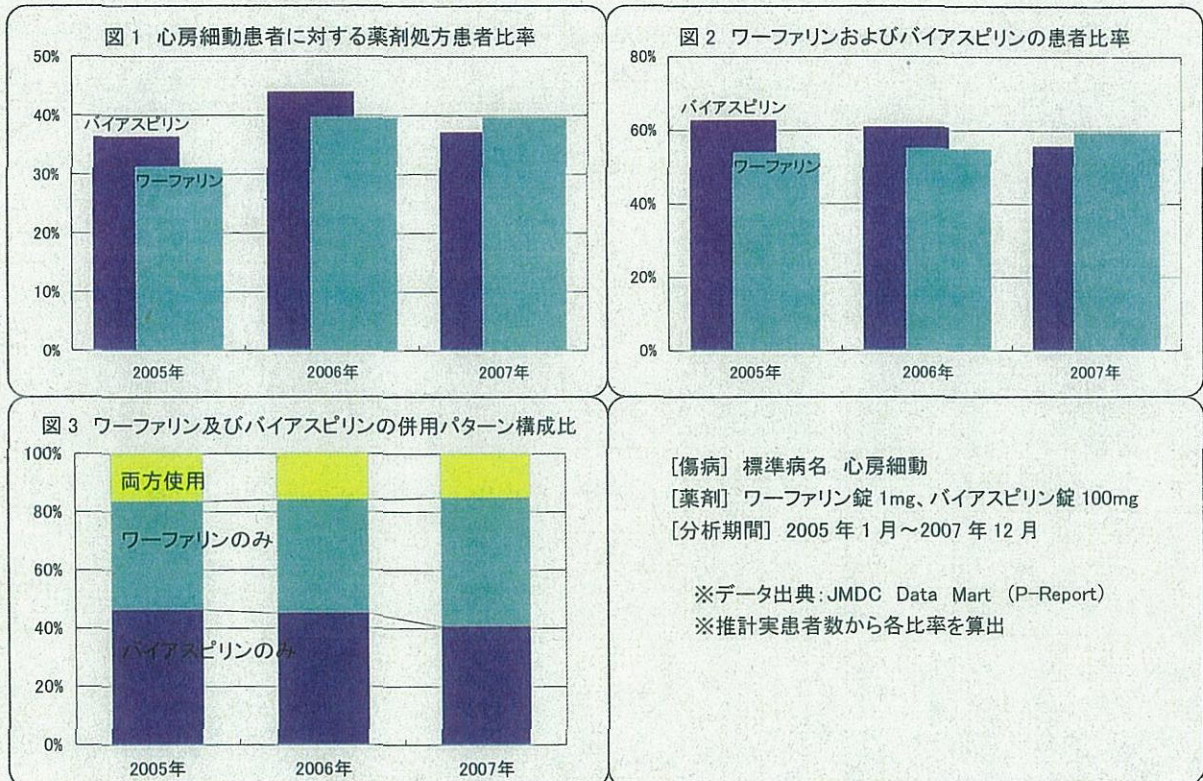


図 1 は各年での心房細動患者を 100 としたときの 2 薬剤の処方患者割合です。ワルファリンは経年で患者比率が上がってきています。また、図 2 は心房細動患者を対象の 2 薬剤のいずれかを処方された患者を 100 としたときの処方患者割合です。バイアスピリンとワルファリンの使用患者数が逆転していることがわかります。図 3 は図 2 の併用パターンを示しており、バイアスピリン単剤処方患者は減り、逆にワルファリン単剤処方患者が増加していることがわかります。2 薬剤併用割合は横ばいです。

- ▶ 施設や併病などのセグメント分析や投与量・投与日数を把握することでより詳細な使用実態がつかめるでしょう。また、JMDC データでは母集団を把握しているため、複数年分のデータであっても同一母集団で上述の分析項目の変化を追うことも可能です。ガイドラインの浸透状況なども測定できます。